

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人 阪神能楽囃子連盟 調和会
公演団体名	一般社団法人 阪神能楽囃子連盟 調和会

内容
<p>普段耳にすることの少ない能囃子の体験を中心にワークショップを行います。 能楽で使用される4つの楽器（笛・小鼓・大鼓・太鼓）の演奏者4名と進行役1名の計5名で実施します。</p> <p>●挨拶 能楽の紹介 日本には「礼に始まり礼に終わる」という言葉があります。正座し、背筋を伸ばして、まずは挨拶を交わしてから、ワークショップを開始します。 能は「謡（歌）」・「舞」を中心とした演劇であると同時に音楽劇でもあります。今回は器楽の「囃子」のお話を中心に、能の紹介を行います。</p> <p>●楽器の解説 4つの楽器の特徴や演奏方法を解説します。また、能囃子の演奏において欠かせないカケ声の解説と体験も行います。</p> <p>●楽器体験（小鼓・大鼓・太鼓） 小鼓、大鼓、太鼓を体験して頂き、小鼓の音を出す難しさや大鼓を打った時の手の痛さを実感して頂きます。</p> <p>●小鼓、太鼓の稽古 小鼓は「揉之段」、太鼓は「舞働」という囃子事（器楽演奏部分）を体験して頂きます。小鼓は構え方から掛け声、打ち方を稽古し、太鼓は手を撥に、ヒザを太鼓に見立てて、ワークショップ参加者全員で稽古をします。ワークショップ参加者は、本公演での合奏の中心的役割を担いますので、しっかりと稽古を行います。</p> <p>●袴（かみしも）作製の解説 江戸時代に武士の正装の一つであった袴は、現在も能楽公演で用いられています。調和会特製の袴キット（上のみ）をワークショップ参加の学年やクラスに配布し、作製方法を解説します。 我々能楽師が着用する袴もクラス或いはグループ毎に作製して頂きます。 本公演ではその袴を披露し、我々が着用して演奏を行います。（子供たちの数によってはセレクションすることがあります。）</p> <p>●本公演にむけて ワークショップ参加者が本公演の合奏の中心的役割を担いますので、繰り返し稽古できるように稽古用DVDを配布します。 始まりと同様に挨拶をして、ワークショップを終了します。</p>

タイムスケジュール（標準）

- | | |
|---------------------|-----|
| ・ オープニング 「早笛（はやふえ）」 | 3分 |
| ・ 挨拶 能楽の紹介 | 7分 |
| ・ 楽器の解説 | 15分 |
| ・ 小鼓「揉之段」の稽古 | 10分 |
| ・ 太鼓「舞働」の稽古 | 10分 |

休憩 10分

- | | |
|------------------|-----|
| ・ 楽器体験（小鼓・大鼓・太鼓） | 30分 |
| ・ 袴（かみしも）作製の説明 | 10分 |
| ・ 本公演にむけて | 5分 |

合計 100分

派遣者数

能楽囃子方 5名

（笛方 1名 小鼓方 1名 大鼓方 1名 太鼓方 1名 進行役 1名）

学校における事前指導

ワークショップ事前の学校における指導は必要ありません。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人 阪神能楽囃子連盟 調和会
公演団体名	一般社団法人 阪神能楽囃子連盟 調和会

演目

能囃子が奏でる和のしらべ ～室町猿楽バンド～ 演目

- 1、オープニング囃子「早笛（はやふえ）」
- 2、挨拶 能楽についてお話 演者の紹介
- 3、能管、小鼓、大鼓、太鼓の解説 かけ声について解説
- 4、「揉ノ段（もみのだん）」を打ってみよう
- 5、囃子を指揮してみよう
～みんなの合図でテンポが変わるよ～
- 6、袴（かみしも）コレクション
- 7、太鼓の合奏
「舞働（まいばたらき）」に挑戦！
- 8、室町のリズムを感じてみよう
「鞆鼓（かっこ）から獅子（しし）」

派遣者数

能楽囃子方7名

（笛方1名 小鼓方1名 大鼓方1名 太鼓方1名 進行役1名 スタッフ2名）

タイムスケジュール（標準）	
オープニング囃子「早笛（はやふえ）」	3分
挨拶 能楽について 演者紹介	5分
能管、小鼓、大鼓、太鼓、かけ声について紹介	15分
「揉ノ段（もみのだん）」を打ってみよう	12分
囃子を指揮してみよう ～みんなの合図でテンポが変わるよ～	10分
休憩	10分
袴（かみしも）コレクション	10分
太鼓の合奏 「舞働（まいばたらき）」に挑戦！	15分
室町のリズムを感じてみよう 「鞆鼓（かっこ）から獅子（しし）」	15分
質疑応答・終わりの挨拶	5分
公演時間	100分

実施校への協力依頼人員

本公演上で実施校の人員協力は必要ありません。

演目解説

- 1、オープニング囃子「早笛（はやふえ）」
龍神、雷神などの登場に用いられる出囃子です。
力強く、テンポの良い曲は子供たちを能の世界に引き込みます。
- 2、挨拶は基本正座、椅子の場合は姿勢正して行います。
- 3、囃子（能管、小鼓、大鼓、太鼓）の紹介
能楽で用いられる四種類の楽器を紹介します。
ひな祭りの五人囃子のお話を皮切りにして、各々の楽器の特徴を丁寧に解説していきます。
- 4、「揉ノ段（もみのだん）」を打ってみよう
囃子のリズム、八拍子を躍動感あふれる「揉ノ段」にて疫病退散を願い生徒全員で体験します。
- 5、囃子を指揮してみよう
「立廻り（たちまわり）」は「舞働（まいばたらき）」の颯爽とした曲とは対照的などっしりと力強い楽曲です。
今回は特別に太鼓の演奏者が他の三つの楽器の演奏者と背中合わせに座り、子供たちの代表者の拳手に合わせて太鼓がかけ声でリードする様をお見せします。
- 6、袴（かみしも）コレクション
能楽で正装の一つとして着用される袴をワークショップ参加者に作製してもらいます。我々能楽師が着用する袴をクラスやグループ（子供たちの数に応じて）毎にデザインを相談し、作製してもらいます。作製された袴は、袴コレクションとして会場でお披露目します。我々がそれを着用して演奏します。
- 7、太鼓の合奏
「舞働（まいばたらき）」をお稽古します。
「舞働」は別雷の神が力強く自然の大なる力を表現する囃子事（器楽演奏部分）です。手を太鼓の撥に、ヒザを太鼓に見立て、太鼓の手組「刻（きざみ）」「頭（かしら）」を子供たち全員でお稽古します。ワークショップ参加者は復習として参加し、本公演のみの参加者はかけ声や太鼓の撥捌きを体験します。
最後は他の囃子演奏者も加わって、「舞働」のお稽古の成果を発表します。
子供たちの代表者（5名程）は舞台上がり、調和会特製の袴を着用し、本物の太鼓で演奏します。ワークショップ時に練習用の段ボール製の特製太鼓をお渡しします。その特製太鼓は記念品として学校に寄贈します。
- 8、室町のリズムを感じてみよう
「鞆鼓（かっこ）」から「獅子（しし）」を演奏します。
当時子供に流行った腰に鞆鼓をつけて撥で打ちながら舞う、軽快なリズムの「鞆鼓」と豪快な獅子が力強く舞い戯れる、迫力十分の「獅子」を聞き比べます。その音楽性の違いや独特な掛け声や気迫を子供たちに感じてもらいます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

能楽は、室町時代に当時の様々な芸能を集大成させて生まれました。この時代の文化は日本文化の原点とも云われ、「侘び寂び」や「幽玄」と言い表されます。この文化の特徴は表現手法を出来る限りに簡素化するというもので、能楽もその手法を用いています。囃子のみで曲の一部分を紋付袴姿で演じることを素囃子と云いますが、能一曲では1時間以上の演奏時間となりますので、囃子の盛り上がる後半部分を抜粋して、より楽しんで頂けるように素囃子形式で鑑賞頂きます。

「鞆鼓」はゆったりとした軽妙なリズムから、目が覚めるような掛け声から始まる大迫力の「獅子」は能楽囃子の至芸ともいえます。しかも特別な掛け声による演奏方法があり、子供たちは「揉之段」や「舞働」で掛け声の重要性を体験しますので、能囃子の高度な技法を頭だけで知るのではなく、身をもって体験できる演目となっています。

現在はテレビやインターネットなどで映像化された媒体に接することがほとんどで、頭の中でイメージを作り上げることが少なくなりました。

能囃子子供たちが、疫病をも振り払う力強い能囃子のエネルギーを通して想像力を高め、強い精神力をもつきっかけになればと願っております。

児童生徒とのふれあい

江戸時代には大名同士で袴の柄を競ったという話もありますので、袴キット（6セット程）をワークショップ参加の学年やクラスに配布して、子供たちに能楽師が着用するオリジナルの袴（上のみ）を作製して頂きます。

クラスやグループ毎に我々能楽師の着用する袴を作製して頂き、本公演に備えます。

本公演参加の子供たちは「揉之段」「舞働」の合奏に挑戦します。小鼓の手組と太鼓の「刻（きざみ）」という手組み（リズムパターン）を稽古します。最後の合奏ではプロの囃子演奏者（笛・小鼓・大鼓）も加わりますので、その力強い息遣いやカケ声を感じることができます。

また、その合奏では子供たちの代表者（5名程度）に舞台上がって頂き、調和会特製の袴を着用し、本物の太鼓で演奏をして頂きます。そして、本公演終了後には、特製の段ボール太鼓を記念品として学校にプレゼントします。